

阿妻一直の『札幌焼・盤溪窯』 生い立ちの記

独立時代（出会い）

一直焼・八軒窯（その6）

今回の掲載で六回目となりま
す。

掲載にあたり、私自身の事や、
作品の事、そして陶芸の事を幅
広く、皆さんに知って頂きたい、
その思い出始めりましたが、少
しずつ横道に逸れてきました。
そこで今回は陶芸産地・個人名
の陶芸家、そして私の作品につ
いて触れたいと思います。

私の作で、これ何焼きとよく
質問されます、この何焼きと？
質問を受けますと、答えるのに、
戸惑います、何焼きという言い
方は基本的に産地名です。

輸送手段が発達していなかつ
た時代には主原料である粘土を
運ぶのはとても困難な仕事でし

た、また熱源である薪も大量に

必要とするため、それらが手に
入りやすい場所が産地となつた

のでした、だから、瀬戸物（瀬
戸焼）と言えば瀬戸市近辺で、

萩焼といえば萩市近辺で、唐津
焼といえば唐津で、信楽焼は

信楽で産出された粘土を使つて
いたのです。

そして、それらの粘土には含
まれている成分も微妙に違い、

その粘土に合わせた仕上げ方、
焼き方を行つており、それぞれ

に違つた焼き上がり、特徴に仕
上がっています。

輸送手段が発達している現在
は、作り手（作家）が、好みの

粘土を購入し、更に調整したり
してオリジナルな作に仕上げて

いきます、現在では、沢山の窯
元名が増え続けておりますが、

その窯名も、地域の名前を取り
入れたり、自分の作家名を取り
入れたり、例えばヘノヘノモヘ
ジとか、自由な、発想で、窯名
を名乗っています。

私の窯名は、そこに住んでい
た、又は住んでいる地域名を取
り入れています。

以前、西区八軒に住んでいた
時代、八軒窯の時には、野幌の

土を使用していましたが、そして
現在の盤溪窯は、地元盤溪の土

を調整して使用しています、次
回は盤溪窯の作品について掲載

します、お楽しみに。

阿妻一直作品展のお知らせ
7月20日（水）～25日（月）

丸井今井一条館8階美術工芸
ギャラリーにて「阿妻一直作陶

展」を開催致します。

「札幌焼・盤溪窯」

陶芸教室の風景▼



ご本尊の窯



熱心に出来具合を話し合う



ロクロを回して作品づくり